| 大規模荷主 | 1荷主の物流部門における二酸化炭素排出量の把握 | | | | | 2環境に配慮している貨物輸送事業者の選定 | | | 3物流拠点の活月 | 用による輸配送の効率化 | 4積載率の向上による輸配送の効率化 | | | | | | 5計画的な貨物輸送による輸配送の効率化 | | | | | 6その他輸配送の効率化により輸送距離及 び回数を削減する取組 | | | | 7 | 7低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 | | | | 8サード | 8サードパーティーロジスティクスの活用 9共同輸配送も視野に入れたモーダルシ フトの推進 10その他の必要な取組 | | | |
|---------------------------------------|-------------------------|--|----------|--|---------|---|----------|--|------------------|--|-----------------------|---|---|-----------------|---|-------------------|--|---------------|---|--------------------------------|--|--|--|---|---|-------------------------|---|------------------------|--|------------------------|---|---|---|---|---|
| 印刷•同関連業 | 1-(1)二酸化炭の抽出 | 炭素排出量の把握及び課題等 | | 前送事業者と自社関連部門におけ 及び改善に向けた取組の実施 | | 輸送事業者に対する二酸化炭素排 計画の提出確認 | 2-(2)貨物輸 | 輸送事業者の環境配慮の確認 | 3物流拠点の活用 | による輸配送の効率化 | | お姿・梱包資材の形状の標準 等による積載率の向上 | 2)混載便の利用や共同輸配送の取組 | 4-(3)輸送 正車種で | 量及び積載率を考慮した の発注 | ○適 5-(1)発注 | 寺間及び配送時間のルール化 | 5-(2)道路混雑時 | 寺の輸配送の見直し | 5-(3)輸送車両の構内や周 待機時間の削減のためのB | | 6その他輸配送の効率化 び回数を削減する取組 | により輸送距離及 | 7-(1)貨物輸送事業: 費車又は省エネルコ 車(以下、「低燃費車 | 者に対する、低燃 一支援機器搭載 等」)の利用要請 | 7−(2)貨物輸送事業ネ イブの実施要請 | 者に対する、エコドラ | | 事業者に対する、低燃き コドライブの実施状況 た取組の実施 | 費車等 の確 7-(4)構内フ | 7イドリング防止のための耳 | 取組 8サードル | パーティーロジスティクスの活用 9共同i フトのi | 輸配送も視野に入れたモーダルシ 推進 | 0その他の必要な取組 |
| 事業者名 | R6 R7 R8 | 取組措置 | R6 R7 R8 | 取組措置 | R6 R7 R | 取組措置 | R6 R7 R8 | 取組措置 | R6 R7 R8 | 取組措置 | R6 R7 R8 | 取組措置 R6 | R7 R8 取組措置 | R6 R7 R8 | 取組措置 | R6 R7 R8 | 取組措置 | R6 R7 R8 | 取組措置 | R6 R7 R8 取 | 組措置 | R6 R7 R8 取 | 組措置 | R6 R7 R8 | 取組措置 | R6 R7 R8 | 取組措置 | R6 R7 R8 | 取組措置 | R6 R7 R8 | 取組措置 | R6 R7 R | R8 取組措置 R6 R7 | R8 取組措置 R | R6 R7 R8 取組措置 |
| 共同印刷株式会社 セキュアサービス事業部 川島ソリューションセンター | | 経油使用量によるエネルギー 単位票(CO2)排出量含)を提ば させている。 | | 定例会議を実施して、課題や問題点等の情報を共有し物流の効率化に取り組んでいる。 | 000 | 法令上提出の義務はない事業者であるため、任意の改善方策を提出させている。 (「東京都貨物評価制度」で「三つ星」を連続獲得したことが改善方策として提出された) | | ISO14000認証と環境方針の確認を実施している。 | O O D 連携し 施。そ | 案件について他拠点とも ン分散納品等の処置を実 ・れにより効率的な配車ス Lール構築に至っている。 | | は荷用の梱包資材を標準化し 意載時のムダが発生しない様 計画的なモノづくりを実施している。 | 〇 〇 配送地域ごとに多品種製品を させる計画を事前に行っている | 「混戦 〇 〇 〇 | 製品の荷姿、重量、形物を事前に把握し適正は選定を行っている。 | | 納日前日の一定時間までの発 注とし予定を立てて発送させて いる。 | : 〇 〇 〇 ため必 | 混雑をする時間帯を避ける 必要に応じて出荷時間を早 等の対応を行っている。 | 〇 〇 〇 納品、引き取りの ジュール管理を | D計画を立て、スケ 行っている。 | | 、配車予定を構築 的な輸送を実施し ⁻ | てOOOハイブリッ | ド2t車 1台 | 〇〇〇環境保全バーへ配 | 注活動カードをドライ 2布している。 | | 保全活動カードをドラィ ヤしエコドライブ推奨活 している。 | :動た () () () | 構内アイドリングストップの 及び日常確認を実施。 |)周知 | - 0 | 〇大型物件の場合、JR貨物のコーンテナ輸送に変更している。 | |
| 共同印刷株式会社 セキュアサービス事業部 鶴ヶ島工場 | | 経油使用量によるエネルギー 単位票(CO2)排出量含)を提ら させている。 | | 定例会議を実施して、課題や問題点等の情報を共有し物流の効率化に取り組んでいる。 | | 法令上提出の義務はない事業者であるため、任意の改善方策を提出させている。 (「東京都貨物評価制度」で「三つ星」を連続獲得したことが改善方策として提出された) | | ISO14000認証と環境方針の確認を実施している。 | 〇〇〇〇一連携し施。そ | 案件について他拠点とも ン分散納品等の処置を実 ・れにより効率的な配車ス ムール構築に至っている。 | | は荷用の梱包資材を標準化し 気載時のムダが発生しない様 計画的なモノづくりを実施している。 | 〇 〇 配送地域ごとに多品種製品をさせる計画を事前に行っている | 「混戦 〇 〇 〇 | 製品の荷姿、重量、形物を事前に把握し適正は選定を行っている。 | | 納日前日の一定時間までの発 注とし予定を立てて発送させて いる。 | : 〇 〇 〇 ため必 | 混雑をする時間帯を避ける 必要に応じて出荷時間を早 等の対応を行っている。 | 〇 〇 〇 納品、引き取りの ジュール管理を | | | 、配車予定を構築 的な輸送を実施し ⁻ | てOOOハイブリッ | ド2t車 1台 | 〇〇〇 環境保全バーへ配 | ≿活動カードをドライ 2布している。 | | 呆全活動カードをドラィ ヤしエコドライブ推奨活 している。 | ・動え ヘ ヘ ヘ | 構内アイドリングストップの 及び日常確認を実施。 |)周知 | - O O | 〇 大型物件の場合、JR貨物のコーンテナ輸送に変更している。 | |
| 株式会社DNP出版プロダクツ 久喜工場 | | 牡内基幹システムによりトンキ まにて把握 | | 社内基幹システムと委託物流会 社(グループ会社)の物流ステム を連携し最適な業務設計を推進 | | 輸送業務をグループ内の専門会社に委託、グループ含めたGHG)削減計画の策定及び定期報告。 社内監査による活動状況の把握 及び助言を行う。 | | 輸送業務をグループ内の専門会社に委託、グループ含めたGHG削減計画の策定及び定期報告。社内監査による活動状況の把握及び助言を行う。 | | 勿流会社が各エリアに物 点を持ち効率化を図って | | 目動化設備による製品梱包の た一化を継続管理 | 社内基幹システムと委託物流 〇 〇 (グループ会社)の物流ステム 携し最適な業務設計を推進 | を連〇〇〇 | 社内基幹システムと委託流会社(グループ会社) 流ステムを連携し最適な 務設計を推進 | の物しつつ | 社内基幹システムと委託物流 会社(グループ会社)の物流ス テムを連携し最適な業務設計で 推進 | | | 構内に荷捌き場 〇 〇 〇 確保しているため 底 | | | | 排出量削 O O 内サステ | 会社を含めたCHG 減目標の設定、社 ナビリティ監査によ 況の確認及び助言 | 排出量削 | 会社を含めたCHG 減目標の設定、社 ナビリティ監査によ 況の確認及び助言 | こののの量削減 | −プ会社を含めたCHG 或目標の設定、社内サ Iティ監査による活動∜ 及び助言を行う。 | · ステ _ _ _ | 構内に休憩場所を確保 | 000 | 社内基幹システムと委託物流会社(グループ会社)の物流ステムを連携し最適な業務設計を推進 | グループ内の各製造・物流会 〇 社間のシステム連携により、 全体の業務を効率化 | |
| TOPPANエッジ株式会社 嵐山工場 | | 数正省エネ法(荷主)にて、トンコ法の原単位増減理由の確認 および課題の抽出、経営層との 青報共有を行っている。 | | 社内の生産管理部門、社内の輸送管理部門、輸送の協力会社で連絡会議等を実施。定期便について荷物の量を連携して車の大きさや便数を調整する。 | | 輸送の協力会社に自動車地球温暖化対策計画書の提出を依頼 | | 委託事業者は、ISO14001の取得 を確認済。輸送の協力会社の燃 料使用量と走行距離を管理し、燃 費向上を依頼している。 | | 工場(朝霞工場)を活用し 率的な輸送を実施 | O O O 極 | 国包形状の統一化 — | | | | | 基本的に1日1便の定期便のみ の配送としている | * | | 〇〇〇定期便による待率運用 | ち時間を抑えた効 | | | ハイブリッ 〇 〇 〇 タルタコメ を要請 | ド車の利用やデジ ーターの設置など | | る力会社にはエコドラ 施を推奨 | ^フ O O O 報を研 | 省エネ法(荷主)にて燃 推認し、毎年燃費向上 行っている。 | | 構内注意喚起の表示 | 000 | ○ 輸送業務は専門業者に外部委 託している。 | | |
| TOPPAN株式会社 川口事業所 | | 改正省エネ法(荷主)にて、トンコ法の原単位増減理由の確認 および課題の抽出、経営層との 情報共有を行っている。 | | 社内の生産管理部門、社内の輸送管理部門、輸送の協力会社で連絡会議等を実施。定期便について荷物の量を連携して車の大きさや便数を調整する。 | : | 輸送の協力会社に自動車地球温 〇 暖化対策計画書等の提出を依 頼。 | | 委託事業者は、ISO14001の取得 を確認済。 輸送の協力会社の燃料使用量と 走行距離を管理し、燃費向上を依 頼している。 | | 業務の専門ファミリー会社 点を利用。 | 0000 | 製品や材料のサイズなどによ 、パレットへの適正な積み付 ○ けを行っている。 | O C 社内の事業所間の定期輸送(載便を使用。 | | 製品や材料の輸送量にて適正な輸送車を配車いる。 | | 生産計画に応じて計画的に輸 送し納品。 | | 状況に応じて輸送経路を選 るなど努めている。 | トラック用の自動置。 輸送部門の担当場を把握し適宜 | | えることでは、 ・○○○○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | できるだけ1ヵ所の ることを優先。 産の場合、配送計 送距離・回数を削 | が は、低燃き は、低燃き ボー支援 している st | カ会社について 費車又は省エネル 機器搭載車を使用 会社を積極的に利 により、使用を促 | | る力会社にはエコドラ 施を推奨。 | ラ〇〇〇一デジタ確認。 | ルタコメーター などで | | 吐内の待機場所・ルールを て基本的に社内駐車とし、 註車は禁止。 | 路上 O O C | 輸送業務は輸送専門ファミリー会社に委託し、社内の生産管理部門と連携することにより業務を効率化。 | _ | 客先からの受注に対して生 拠点の最適地を選定。 インプラント化により中間製 の輸送等の削減。 |
| TOPPAN株式会社 幸手工場 | | 貨物の輸送重量・輸送距離・車 送便からCO2排出量を算出し いる。 改正省エネ法(荷主)にて、トンコ法の原単位増減理由の確認 および課題の抽出、経営層との 青報共有を行っている。 | + O O O | 使用している貨物輸送事業者と物流部門とで定期的に監査を実施。エコドライブ活動等の確認を行っている。又、施策としては、得意先様との連携による、輸配送効率向上施策 (荷姿統一化、軽量化等の推進)を行っている。 | | _ | | 契約更新時にグリーン経営認証等 の取得状況を確認している | 等 | | 000m | 基本的に定型パレット(1100m nX1100mm)への積み付けを ○ E施している | 同一方面への輸送や少量のIO () 他社との混載便での輸送を実 ている | 宗は | 車両を発注する際に事 貨物重量・パレット数を し適正な車両で発注して る | 把握 | | 〇〇〇場合は | の道路混雑等が予想される は出発時間を早めたり、高 の使用を許可している | | | | | | | 〇〇〇 戸イドリン要請して | ッグストップの励行を いる | <u>*</u> | | | 構内に待機場所があり、ア リングストップ看板を工場! 内に設置し、委託運送会社 達している | 敷地 〇〇〇 | 〇 輸送及び倉庫の一部業務を別 会社と協力し活用している | _ | |
| TOPPAN株式会社 坂戸事業所 | | 改正省エネ法(荷主)にて、トンコ法の原単位増減理由の確認 および課題の抽出、経営層との 青報共有を行っている。 | | 社内の生産管理部門、社内の輸送管理部門、輸送の協力会社で連絡会議等を実施。定期便について荷物の量を連携して車の大きさや便数を調整する。 | ; | 輸送の協力会社に自動車地球温 受ける 受化対策計画書等の提出を依頼。 | | 委託事業者は、ISO14001の取得 を確認済。 輸送の協力会社の燃料使用量と 走行距離を管理し、燃費向上を依頼している。 | | 業務の専門ファミリー会社 点を利用。 | 0000 | U品や材料のサイズなどによ 、パレットへの適正な積み付 ○ けを行っている。 | O C 社内の事業所間の定期輸送(載便を使用。 | t混 O O O | 製品や材料の輸送量にて適正な輸送車を配車いる。 | | 生産計画に応じて計画的に輸 送し納品。 | 17 117 117 11 | 状況に応じて輸送経路を選 るなど努めている。 | | | で見る。 | できるだけ1ヵ所の ることを優先。 産の場合、配送計 送距離・回数を削 | は、低燃! は、低燃! ギー支援 している: | カ会社について 貴車又は省エネル 機器搭載車を使用 社を積極的に利 により、使用を促 | | る力会社にはエコドラ 施を推奨。 | ラ〇〇〇一デジタ確認。 | ルタコメーター などで | | 社内の待機場所・ルールを て基本的に社内駐車とし、 註車は禁止。 | 路上 O O C | 輸送業務は輸送専門ファミリー会社に委託し、社内の生産管理部門と連携することにより業務を効率化。 | - | 客先からの受注に対して生 拠点の最適地を選定。 インプラント化により中間製 の輸送等の削減。 |
| TOPPANホールディングス株式会社 朝霞事業所 | | 改正省エネ法(荷主)にて、トン□法の原単位増減理由の確認 □法の原単位増減理由の確認 および課題の抽出、経営層との 情報共有を行っている。 | | 社内の生産管理部門、社内の輸送管理部門、輸送の協力会社で連絡会議等を実施。定期便について荷物の量を連携して車の大きさや便数を調整する。 | ; | う 輸送の協力会社に自動車地球温 暖化対策計画書の提出を依頼 | | 委託事業者は、ISO14001の取得 を確認済。 輸送の協力会社の燃料使用量と 走行距離を管理し、燃費向上を依頼している。 | 協力 | 会社の物流拠点を活用し 6 | 1 () 1 () 1 () 1 . | 图包形状・パレット規格は統一 ○ | 3PL事業者にて同一エリア内 〇 ○ 注は極力積み合わせや混載(利用 | の発 更を 〇 〇 〇 | 3PL事業者にて積載量 わせて発注 | に合し へ | 配送指定時間を出来る限り午 前・午後のように幅をもたせる。 うに交渉し、荷物を集めて積載 率を向上 | よっしつ3PL事 | 事業者にて道路混雑状況を | 0 0 0 5できるようにし | 納品ドライバーへの配信)。納品スケ 配信)。納品スケ とドックで誰でも閲 ている。また車両 帯には待ち時間だ | D | 会社間と連携して気 こいる | ○ ○ ○ デジタル: | マコメーターの設置 青 | 〇〇〇二コドライ請、実績 | ′ブなどの実施を要 確認 | O O O デジタ 随時で | ブルタコメーターなどで [®] な認 | ^{状況を} 〇 〇 〇 : | | ている 〇 〇 〇 | 〇 協力会社間と連携している | 0 | 生産拠点の最適地化、イン 〇〇〇ラント化による輸送距離の 減 |
| TOPPANホールディングス株式会社 総合研究所 | ÷ | | | | | | | | | | | _ | | 000 | 廃棄物回収は廃棄物の トックがトラック1台分に てから業者手配。 | こなっ〇〇〇 | 宅配業者の配送時刻をルール 化。 | , - - | | | | | | | | | | | | 000 | エ事業者に対し周辺道路 ⁻ 路上駐停車を禁止を通達。 アイドリングストップ看板を 場に3箇所設置済み。 | | _ | _ | |